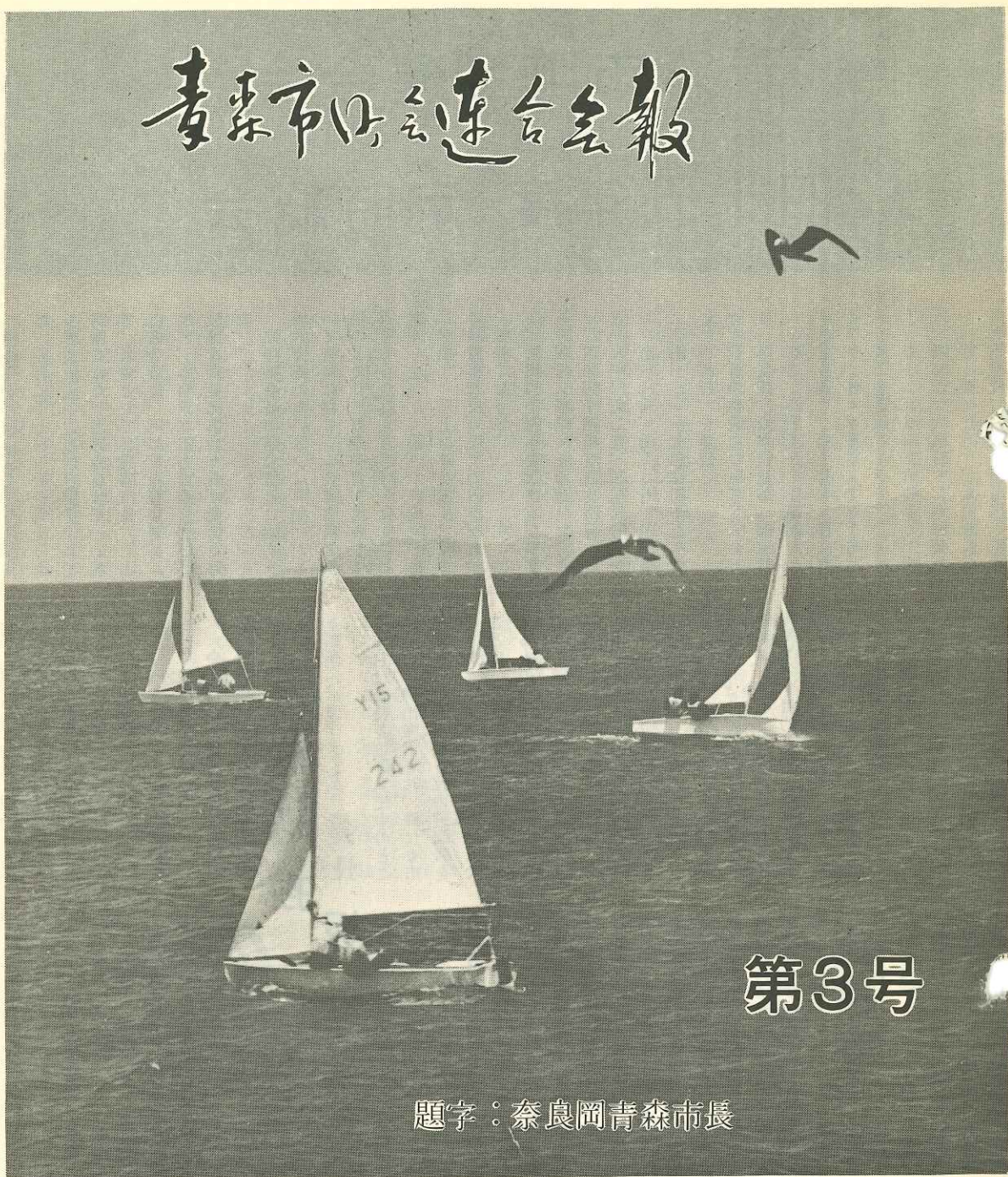


青森市連合会報



第3号

題字：奈良岡青森市長

愛市運動

愛市運動とは、全市民の力で、青森市を、明るく、清潔な、住みよい、豊かな街にするための呼びかけを実践することにあります。全市民のみなさん！

愛市憲章の実践目標完遂に努力し、われわれ市民の力で、大青森市を建設しようではありませんか。

愛市憲章

昭和三十年三月制定

大青森市建設の誓い

- 一、美しい大青森市をつくろう。
- 二、明るい大青森市をつくろう。
- 三、ことを守る大青森市をつくろう。
- 四、むだのない大青森市をつくろう。
- 五、ゆたかな大青森市をつくろう。

青森市町会連合会

四十五年度 定時総会

昭和四十五年度本会定時総会は、四月二十七日午後一時十分より青森県商工会館五階ホールで開催された。出席会員は二一七名で、来賓として奈良岡市長、三上市議会議長、阿部青森警察署長(代)、本間東北電力青森営業所長、後藤青森観光協会々々長が臨席された。

佐藤副会長の開会宣告に始まり坂本会長のあいさつ(別掲)があつて表彰に移り、(表彰者氏名別掲のとおり)被表彰者を代表して木村千代吉氏(両門町々会長)が謝辞を述べた。続いて奈良岡市長(別掲)、三上市議会議長、阿部青森警察署長(代)の祝辞があつて議事に入った。

一、昭和四十四年度庶務及び事業報告(省略)を承認
 一、昭和四十四年度収支決算(収入一、九二五、二三五円、支出一八八、四二八円、差引残四一、一一七円は四十五年度へ繰越)を承認

一、役員の変更について
 △会長 坂本松三郎(南栄町)
 第二△副会長 佐藤直次(北片岡)、福土邦夫(篠田町)、佐々木正造(上三上町)、前田金之丞(瀬戸子)、中村春一(八重田)△監事 工藤四郎吉(大福町)、木村藤次郎(荒川一区)、太田健夫(馬屋尻)と選出

会長挨拶

会長 坂本 松三郎

一、昭和四十五年度事業計画案(省略)を原案通り可決
 一、分担金の額の改正についてを原案通り可決
 △五〇世帯までの町会年五〇〇円 △五一―三〇〇世帯までの町会年八〇〇円
 △三〇―一五〇世帯までの町会年一、一〇〇円 △五〇

一以上世帯の町会一、四〇〇円
 一、昭和四十五年度収支予算案(収入一、九六八、七一一円、支出一、九六八、七一一円、差引残なし)を原案通り可決
 以上を以て議事を終る。富士副会長の閉会のことばがあつて午後三時二十分閉会した。

本日は会員各位御多忙中のごろ柱げて御出席下され、殊にも市長殿をはじめ来賓各位の御臨席を頂き斯くも盛大に開会できましたことは、本会の降たる発展を意味するもので、青森市の前途のためにも、まことに喜ばしいことであります。

顧みれば、昭和二十七年四月十七日、政令第十五号、即ち、町会制度解散に関する政令が廃止せられ、爾来自由なふんいきの下に民主的団体として衣替えした新しい町会が、町民の福利増進と地域の振奮繁栄を目的として続々と誕生致しました。これに伴いまして各町会の連絡協調を図つて市民の福利増進に寄与する趣旨を以て、昭和三十年一月に本会を結成したのでありますが、本年は創立満十五周年という意義ある年に当り、町会の加入数も現在二百五十八という

今更申し上げる迄もなく、町会は行政機関と何等関係なく構成せられてはおりますが、前にも申し述べましたように町民の福利増進と地域の振奮発展を目的とする以上、その目的達成のため市の行政に無関心ではあり得ないのは理の当然であります。ここに市の行政に対する色この要望と協力の姿が見られなければならぬのであります。幸にして町会長各位の御理解と御活動により随所にその姿が見られることに對し衷心より感謝の意を表するものであります。

今その事例を挙げますと、一昨年の地震、昨年の水害と、青森市は二年連続して災害を蒙りました。これに對する市当局の援護対策が適切であつたことは申す迄もありません。これを迅速に実施

「お湯治の効果」

○身体の機能を若返らせます。
 ○胃腸の弱い方、カゼの引き易い方、神経痛の方に：
 〃酸ヶ湯は日本一の高地気象の転療養地です。
 ○年に十日間のお湯治は健康をお約束します。
 ○三日間の、御入浴でも大きな効果です。

酸ヶ湯 TEL 05 2258

松 白鹿

超特級 一級

格調に生きる酒の白鹿
 酒造好適米播州・山田錦
 と魂 宮水のかもし出す
 最高の清酒

大原商店

青森市堤町二丁目一番七号 電話代(34)8316~8

あらかしめたのは町会長各位の並ならぬ御努力の賜であったことは否定することのできない事実であります。又近年伝染病の発生も皆無に近く、火災又は犯罪も漸減し、殊にも昨年の如きは県下における交通事故死亡者は、前年に此し十名減少しておりますが、これは青森市の実績であるとのことであり、面してこれ等の事実は、町会長各位の御指導による地域住民の実践活動の結果によるものでありまして、高く評価されて然るべきものと確信して止みません。

特に昭和六十年を目標とした青森市の総台開発計画は、今年から「青い空、青い海、青い森」の住みより豊かな街づくりを目指して第一歩を踏み出すことになりまし

市長祝辞

市長 奈良岡 未造

青森市町会連合会の定時総会に当り心から祝意を表します。

本日ご参集の皆様方には常日頃青森市の行政全般にわたって格別のお世話をいたしておられます。ここに深く敬意を表し心から感謝申し上げます。私が市長に就任いたしましたから既に三年を経過しましたが、この間豪雪、地震、水害というように大きな災害が次から次へと続き、その損害額は豪雪は別にして地震二十五億、水害四

たが、これは、市民が参加し、すべての市民によって推進されるのでなければなりません。そしてこれは地域の発展と住民の福祉増進に直接つながるものだけに、各町会においても進んで協力すべき事項が多くあることと存じますが、町会設立の目的に鑑みまして、町会長各位の今後の一層の御活動を切にお願いする次第であります。

なお、私の在期満了に際し、存在中に寄せられた町会長各位の御好意と御支援に対し心から御礼申し上げると同時に、蔭の力となつて町会長である御主人の御活動を助けられた御家族の方に対し心から敬意と謝意を表して以て開会の挨拶と致します。

今もなお過去の災害から市民は十全に立ちなおったであろうか、或いはまだそのために困っているのではないか、ふと心配になります。

これまでの災害を通じてなによりも感激したことは、各町会の惜みない協力であります。被害調査、物資の供給、労力の提供などみな心よく力を貸していただくなど、

災害によって失なうものも確かに多かったが、それよりも市民の美しい行為が多かったこと、本当に今も心温まる思いがいたしました。中でも町会長さんは町会の中心となっておりますだけに苦勞の連続であつたろうと察します。それにもかかわらず私どもの無理なお願いも寛大に受け入れていただき、おかげで予想以上の速度で復旧できたことを改めて喜ぶものであります。

なお近く災害の知識、教訓、心構えなど一つにまとめた「災害の記録」をよりよい明日のために毎戸に配布することになっておりますので必読願えれば幸いと存じます。

今度はまた青森は市民の課題である市民総参加の総合開発計画に取り組まねばなりません。これもまた皆様のお力添えにまつことまことに大きいということは、論をまたないところであります。予想される投資額は民間三千億、公共四千億、実に計七千億となつており、これを市民一体の意気と底力で計画を達成しようというわけでありませぬ。

どうか私どもはもちろん、老人が余生を楽しめ子供たちや孫たちが健康に賢く育つような人間生活本来の、しかも最上の環境をもつ青森市を昭和六十年までは是非とも完成させますよう幾重にもご協力

をお願ひ申し上げますと同時に町会連合会の隆昌発展と皆様方のご健康をお祈りしてお祝ひの言葉といたします。

表彰者氏名

十年勤続町会長

浪打一丁目	田沼敬造
西門町	木村千代吉
北片岡	佐藤直治
千菊町	工藤六三郎
野沢	長内忠一
牛館	棟方定雄
荒川一區	木村藤次郎
支村	前田喜代吉
信用町	藤岡貞一
若葉町	西村武敏



スーパーたしろ

TEL (代) 77-4717

青森市大字古川字千刈45

TEL 本店 76-7926
浪館店 66-3735
沖館店 66-4963
造道店 77-8874

五年勤続町会長

優良町会員

浪打二丁目	浪打	八重田	矢作	中野	曙町	松森地	六枚橋	西田	夏井	前田	大坂第二	岡山	沢山	松森	馬屋	桜川	下川	十三	中森	本古	大工	野脇第一	松森	合浦										
奈良	森中	田葉	千岩	鹿内	鎌田	富士	田中	田兵	富兵	田悦	田鉄之助	田重	田雄	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重	田重									
花園町	栄町	南栄町第二	南栄町第一	相馬町	大坂町	合浦町	松森町	佃本町	佃本町	福田	岡造	西門町	合浦二丁目	浪打二丁目																				
石黒	柏田	成田	佐藤	一戸	千田	对馬	桂井	荒谷	柳谷	佐藤	工藤	高松	松谷	三上	坂牛	佐藤	千葉	荒内	坂本	藤村	植村	須藤	成田	松見	川村	長谷川	木村	小林	間山	郡竹	佐井			
重直	成一	豊一	日出	志美	義美	正志	正志	由一	浅次郎	哲雄	しん	繁真	安五郎	平蔵	美津夫	長治	充功	重道	一	二	三	め	竜男	勘次郎	定造	健太郎	大太郎	ナヲ	竹次郎	敏重	力重			
山浦	浦町第二	浦町第一	橋本南	橋本第一	橋本	国道寺	大工	鍛冶	浜治	大柳	米柳	南柳	堤町二丁目	野脇第一	松原	堤町	荻町	塩町	博勞	松森	青柳一丁目	御園	茶屋町東	茶屋町南	茶屋町第二	安達	武吉	要吉	三上	正作				
能登	横山	照井	石岡	田中	品川	新堀	湊田	島田	辻喜久	佐藤	兼吉	清作	勇征	俊次	長助	惣二郎	アイ	直俊	誠一	久枝	由太郎	正四郎	芳雄	力三郎	英一郎	さき	弥一郎	子之正	幸正	みどり	つる	武雄		



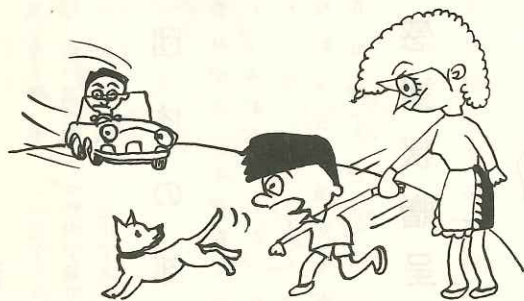
安方町	末広川	第一古川	中央古川	本古川	勝田中央	勝田第一	西浦町	上浦町	横山	山の				
横島	長内	桜井	板橋	石岡	池野	坂本	工藤	羽賀	野藤	角谷	亀水	浅木	佐々	三上
政吉	文健	松太郎	粕太郎	幸吉	英男	武吉	勝博	正路	茂芳	千代子	忠造	キヤ	又正	



あなたのイメージを宣伝、販売に直結させる広告代理店

APD 青森企画演出株式会社 (77) 4 8 5 1 (77) 1 6 2 3

東上川	協和町	曙葉町	若葉町	常盤町	北金沢	信用水町	山田町	宝来町	南旭町	嘉重町	桜重町	緑長島	新長島	長島仲町	長島南町	長島町	八島町	中央旭町	東旭町	北片岡	下新岡	中新岡	上新岡	上通町	駅前																																	
内山重郎	石川貞一郎	三上富三郎	今井正三郎	三上兼雄	中井義雄	伊藤市三郎	桜田勝義	神田ゆき	雪郷キエ	須郷友子	藤田美栄	今川繁光	田川寛一	佐々木勇一	板垣正三	秋田鉄雄	神戸彦次郎	穴戸忠久	小田久蔵	夏坂やす	小田幸四郎	中島義美	工藤憲一	山田愛一	菊地武悦	木村平治	山道義男	工藤平治	武井勇一	浅利ナヲ	近藤和郎	成田政江	大坂定夫	渡部忠																								
十富森	西田町	東昭和町	篠田町	大福町	沖館第三	沖館第二	沖館第一	新田	西千菊町	南千菊町	上三上町	久須志町	南三上町	仲三上町	三上町	千第町	西上二川	西上川	扇野勘之文	遠野外悦	扇野一栄	高山喜代三	山本寅五郎	波谷門之助	大槻徳松	小野喜太郎	加茂邦秀	三浦義一	柿崎利敏	浅川元治	厨川敏子	蝦名政次郎	諏訪孝治	渡辺幸治	浅井睦夫	桜田岩一	坂本友作	附田光二郎	田中千代治	福田三郎	秋元卯一郎	奈良久吉	越後正徳	高橋きみ	本間ひで	鈴木政之助	佐藤キヌ	小川喜三郎	鎌田喜良	白取源吉	工藤盛征	小杉平内						
大野	甲田町	南信町	青南町	浪館浅井	丸野第一	相野第一	岩野渡内	孫	三内第一	三内第二	浪館第二	浪館第一	西川滝	油川新生町	平和町	新井田町	伝馬町	横町	仲油町	新ひばりの	寺木和	野木町	茶屋町	下町	館	原	楠田	三中国	工藤芳雄	三浦正勝	今井弘次郎	佐藤一征	加賀国由	高村由勝	我満昭	前田啓昭	近藤藤治	穴戸芳元	吉崎全平	岡田富士雄	工藤徳美	林塚憲一	手塚清一	畑野和助	秋元和夫	岸田定四郎	内村巳之助	永井百之助	桜谷三千雄	佐々木せい子	田中治	武花勇三	野呂泰蔵	三浦慶五郎	相馬益雄	内村重義	奈良栄之助	森内
新奥野第二	新奥野第一	旧奥野	浜田	東片岡町	南片岡町	今藤	須藤	西村	高橋	相馬	斎藤	神	柴谷	名古屋	川村	加賀市	佐藤喜三郎	山内朝次郎	葛西勝征	中村金之丞	今藤清英	須藤幸三	西村清三	高橋文一	相馬善五郎	斎藤義雄	神	大	細	安	金	沢	田	越	柴谷	名古屋	川村	加賀市	佐藤喜三郎	山内朝次郎	葛西勝征	中村金之丞	今藤清英	須藤幸三	西村清三	高橋文一	相馬善五郎	斎藤義雄	神									



カワイボックスでああなたの街を 住みよくきれいにしましょう。

全国の都道府県で使用されている

特許ゴミ収集専用袋 カワイボックス のお問合せは

青森県総代理店 中村包装
青森営業所

青森市沖館篠田
TEL(66)4753
青森市沖館千菊 222
TEL(66)3877(7)7727

（袋はこのようにセット
されております）



（丈夫な金属容器）

青森市町会連合会の沿革

その2

町会の運営にあたっては毎月一回以上常会隣組常会が開かれ、隣組については組長各戸輪番による月当番があり、町会には事務所を設け事務員をおき市と連絡をとり配給物資の配給、町費の取立、出征兵士の歓送及び遺家族の救援等を取扱っていた町会の活動は決戦段階にいたってますます多忙をきわめ、国策遂行の上意下達の行政機関として重要視された。こうして防空防護物資の供出労働奉仕翼賛運動貯蓄増強納税貯蓄切符通帳制登録制策による割当配給妊産婦住民移動その他の届出等すべて町会を通じて行われ終戦をむかえた。

町会制度の統合

終戦時に於ける青森市の町会は百五十一であったが、戦災による人口の減少に対処し、事務の量的軽減を図るためにこれを統合して五十一町会とした。これは昭和二十一年三月のことであった。戦後においてばつ然として湧上った民主主義思想は、この町会の統合に際しても遺憾なく表現されたのである。それは町会の民主的運営のため町会長は従来如き天降り式任命ではなく須く町民の公選によるべしとの主張が行われ、統合

後の新町会長は町民の直接選挙によって選ばれたのである。この選挙においては大体において旧町会長の出馬した所が多かったが、中には長島仲町の如く新人、旧人入乱れての激甚な競争が行われ、恰も市議選挙の前哨戦の如き観を呈した所もあった。統合による新町会は左の通りである。(括弧内は統合せる旧町会である。)

町会制度の廃止

昭和二十一年三月、民主主義を基調として新発足した町会制度も、戦時色の徹底的払拭の埒外にあることは不可能であった。即ち、昭和二十二年五月三日、新憲法施行の日を期して「昭和二十年勅令第五百四十二号ボツダム宣言の受諾に伴い発する命令に関する件に基く町内会部落会又はその連合会等に関する解散就職禁止その他の行為の制限に関する政令」が政令第十五号を以て公布、即日施行せられ茲に昭和十六年、上意下達、下意上達機関として発足したこの組織も発足後七年にして終止符を打つことを余儀なくされたのである。なお昭和二十一年五月二十日現在における青森市の町会の概要は左の通りである。

町会長	町会副	隣組数	戸数
八重田	佐々木 定一	二四	四二二
造田	田沢 虎雄	三五	六一四
浪打	工藤 卓二郎	三三	五七〇
東浪打	須藤 豊八	一三	三二〇
花園	千代谷 嘉市	二六	五二三
栄町	木村 巖	三〇	五五六
古茶屋町	久慈 玉三郎	二七	五七三
大坂町	大坂 金助	一八	二〇九
相馬町	高橋 政五郎	一九	三三八
野脇第一	若井 武一	一七	二六一
野脇第二	羽賀 銀次郎	一七	三三二
松原	村本 兼吉	一六	二八一
橋本	堀内 大成	二〇	三三四
橋本南	横山 友太郎	二七	三三四
浦町第一	渡辺 興助	一一	一九九
上浦町	山口 善策	一一	一六七
山ノ手	野呂 長三郎	一一	一二五
新浦町	奈良岡 勝太郎	一四	一七五
浜町	伊藤 善五郎	一五	一八六
大町	吹田 鈴三郎	九	一七八
米町	北谷 幸八	一一	二二八
蜷貝	塩谷 真吉	二六	三三八
博労町、塩町	村本 喜四郎	一〇	一六五
塩町、苺町	高谷 忠藏	八	一三八
松森町	淡谷 正助	八	一四〇
尾崎	佐藤 健助	八	一四〇
佐藤	成田 治兵衛	八	一三八
柴田	山崎 要作	一〇	一六五
岩松	中山 豊一	二六	三三八
山中	泉村 之助	一一	二二八
今泉	阿部 平八郎	九	一七八
岡本	岡本 勉	一一	二二八
小島	小島 平八郎	九	一七八
武田	葉賀 三郎	一五	一八六
千平	千平 孝三郎	一四	一七五
畑井	畑井 東喜治	一一	一二五
相馬	相馬 秀樹	一一	一六七
坂内	坂内 義雄	一一	一九九
阿達	阿達 治吉	一一	一九九
浅利	浅利 誠治	一一	一九九
斎藤	斎藤 岩太郎	二七	三三四
倉本	倉本 千太郎	二七	三三四
中村	中村 修治	二〇	三三四
篠原	篠原 克太郎	二〇	三三四
窪井	窪井 三太郎	一六	二八一
平井	平井 敏吉	一六	二八一
石島	石島 利吉	一七	三三二
小郷	小郷 静蔵	一七	三三二
飛鳥	飛鳥 武蔵	一七	二六一
三上市	三上市 立五郎	一九	三三八
立川	立川 実信	一九	三三八
塩谷	塩谷 多三郎	一八	二〇九
成田	成田 喜代吉	一八	二〇九
羽賀	羽賀 卓次郎	二七	五七三
太田	太田 勝太郎	三〇	五五六
前川	前川 弥五郎	二六	五二三
宮川	宮川 久蔵	二六	五二三
宮川	宮川 清蔵	二六	五二三
西塚	西塚 勘助	一三	三二〇
小田	小田 勘助	一三	三二〇
木村	木村 勘助	一三	三二〇
伊藤	伊藤 勘助	一三	三二〇
小笠原	小笠原 勘助	一三	三二〇
佐々木	佐々木 勘助	一三	三二〇
佐々木	佐々木 勘助	一三	三二〇

(8頁続く)

いつものなれた通りでも 正しく歩いて正しい横断

「昭和45年交通安全年間スローガン」



第一油川	第三油川	第二油川	沖館町	昭和町	篠田町	上古川	古川	北金沢	三上町	第一古川	旭町	長島町	常盤町	森紅園	長島仲町	駅前	新安町	南町	嘉島町	長島	北片岡	中央	緑町	柳町																		
小山内	竹本	中村	前田	三上	工藤	山本	杉浦	沢田	福士	木村	三上	今岡	境	成田	三上	三國	川島	渡辺	佐藤	猪股	山崎	佐藤	村本	齋藤	島村																	
五三郎	幸穂	甚七	民藏	定一	藤四郎	多治	清太郎	惣之助	多三郎	繁吉	祐太郎	敦磨	勝三	松助	惣之進	英太郎	弥四郎	広治	末吉	末五郎	勝正	永太郎	磯吉	忠二	繁雄																	
小山内	佐々木	成田	窪田	関谷	白戸	奈良岡	山本	工藤	鈴木	浜田	成田	桜田	小笠原	中沢	阿部	岩沼	八代	福士	倉内	対馬	工藤	坂本	坂本	対馬	大橋	須藤	平岡	奈良岡	木村	藤田	布西	葛西	瀬戸	大村	横山	佐藤	福井	小笠原	片谷	秋谷	関谷	川谷
正三	盛三	幸三	義一	貞吉	新三	清五郎	武雄	史太郎	寅吉	繁雄	喜次郎	善四郎	末吉	豊隆	和藏	春吉	辰之助	豊蔵	賢太郎	賢太郎	清吉	祐亮	石太郎	福太郎	勇一	卓蔵	慶蔵	国造	末清	弥作	友太郎	幸太郎	武志	盛蔵	雄助	豊三郎	恒五郎	良之助	賢義	冒悦		
四二二	二二六	四四五	四七二	四五七	五二二	七三四	二二七	二二七	五八五	四八八	二〇七	五九九	二四一	三八〇	一四三	一七四	一〇八	一四八	二九二	二八八	二六四	一八九	二八七	二二一	二四六	二四二																

ご承知のように、町内の皆さん方のご理解ある協力によりまして年々防犯灯も増加し、暗い青森市の汚名はだんだん解消しつつあります。

このことは夜の暗い町を解消して、明るい住みよい町づくりに努力してきた私共といたしましても誠に同慶の至りと存じておる次第であります。しかし乍ら、青森警察署の調査によりまして、まだまだ青森市内には、暗いため防犯上問題になる個所が多く緊急に解消しなければならぬと思われるところが、約一三〇個所にもぼつております。東北電力よりは毎年防犯灯を三〇灯以上寄贈いただき、これら問題個所の解消につためておりますが、これだけではまだまだ不足でございます。

つきましては、この度も東北電力から寄贈いただいたので、これを呼び水としてこの問題個所を全面的に解消するため青森警察署長、防犯協会長、東北電力青森営業所長、青森市町会連合会長の四者



愛の贈灯運動を始める

この運動は各町会単位に町内に住んでおられる有識者等と呼ばひかけ寄贈を願ひ町会の問題個所に防犯灯をとりつけ、明るくて住みよい町会にしようと言う運動であります。尚寄贈を受けられた場合は、東北電力青森営業所に連絡いただきますと、ご寄贈者のご氏名を二ヶ年以上ご寄贈防犯灯の真下に長示し、謝意を表すことになっております。

くわしいことは各町会長さんに連絡してあります。本運動の趣旨をご了承の上、何分のご協力をお願いしております。以上

昭和四十五年七月十五日
発行
発行者
青森橋本二丁目二番十七号
青森市町会連合会
(会長) 坂本松三郎

編集
青森市本町二丁目十番二号
青画演出株式会社

(消臭・殺蛆) トイレ専用防疫薬 (殺菌・殺卵)

全国市町村特納品採用薬剤

デリサン-D

便所を美しくする運動にご参加下さい。

一家庭に一本そなえましょう ※ 伊吹正化学工業株式会社